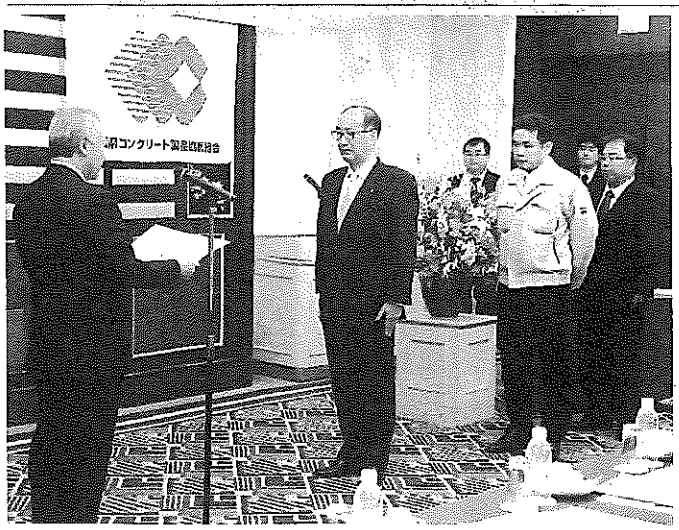
ホームページアドレス：http//www.jcpress.co.jp
メールアドレス：jcp-chiba@jcpress.co.jp
©日本建設新聞社（平成31年）
日刊（日、月、祝翌日休刊）
The Nikkan

50周年の節目迎え式典

県コンクリ製品組合



組合への功労者に対する理事長表彰

保美理事長

県コンクリート製品協同組合（保美善和理事長）は、今年で50周年を迎えたことを受けて18日、千葉市内で創立50周年記念式典と新年賀詞交歓会を執り行った。当日は半世紀にわたる組合の歩みを振り返るとともに、1969年の組合設立から、記念講演なども開催。その後併催された新年賀詞交歓会などを経て出席者らは、次の10年、20年に向かう気持ちを新たにするなどした。

式典の冒頭で保美理事長は「諸先輩方の跡を引き継いできただけ」と、これまでの役員らの労に感謝の言葉を述べると、来賓からは県中小企業団体中央会の今関光俊専務理事が、平栄三会長のあいさつを代読。ウエーブボウソウをはじめとする新商品の開発など他の団体の模範となる活動を続けている同組合に敬意を示しながら、景気が回復した実感のない中、コンクリート製品の需要が景気に左右されやすい点について触れ、中小企業の生き残りのため「互いが持つ経営資源を補完し合いながら強固な経営基盤を作り上げることが重要」だとし、同中央会として時宜を捉えた支援をしていきたいとした。

次の10年、20年へ

橋本氏による記念講演も好評

続けて、組合の発展に貢献のあった理事長表彰（優良従業員功労者）として▽吉田直人氏（千葉窯業）▽岩澤士郎氏（三洋コンクリート工業）▽伊藤賢氏（日新コンクリート工業）▽今井正一氏（共栄建材工業）――（表彰順）の4人、理事長感謝状として友光俊郎氏と小野鐵雄氏（同）の2人に表彰状と感謝状を贈った。受賞者からは岩澤氏が謝辞を奉読。節目での受賞を光栄だとした上で、これを誇りに社業にまい進したいと述べた。

北岡課長

続く記念講演では、元通商産業省の官僚で、テレビ番組「世界一受けたい授業」にも出演した、政策研究大学院大学の橋本久義名誉教授が講義。「町工場こそ日本の宝 中小企業が滅びれば日本経済も滅びる」と題し、目まぐるしく変動する世界経済の中、さまざまな技術と工夫で活躍する中小企業こそが日本を支えると説いていた。

多くの来賓を招いた賀詞交歓会で、あらためてあいさつした保美理事長は、高度経済成長期に設立され、その後繰り返す好不景気の中、県や組合員の要望を受け、U型柵渠を改良したB型柵渠、各社でバラバラだった仕様を統一した千葉県型側溝および蓋などを開発してきたのに併せ、組合認定工場検査の継続と技術・品質の維持を図ってきたと説明。「引き続き組合製品の販路拡大を支援してほしい」とする一方、これまで以上に組合員や賛助会員一同が一丸となって飛躍していくと決意を述べた。

来賓からは県土整備部技術管理課の北岡聡課長が、現場施工の省力化・省人化が期待できる構造物のプレキャスト化の促進が考えられる中、県としても安全性、耐久性に優れ、信頼性の高いコンクリート製品を確保する上でも、同組合とはこれまで以上に連携することが重要だとし、県でも「ちば千産技術」の紹介や総合評価による県産品使用への加点などに取り組んでいることに理解を求めるなどした。

災害に備え来月

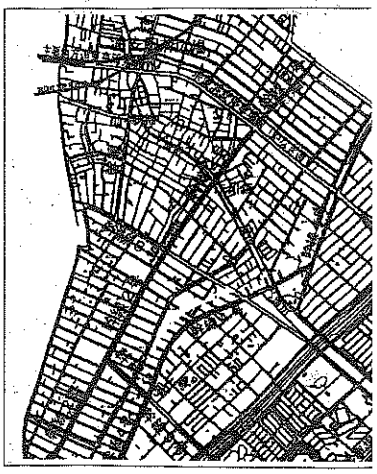
災害協定へ

国交省利根下

備えて、建設業者29社と災害協定を締結しているが、期間が2019年3月31日までとなっていることから、新たに協定締結を希望する建設業者を公募することにしたという。今回の協定期間は、2011年3月の東日本大震災では、同事務所管内で多くの河川施設が被災したが、協定を締結した建設業者の迅速な対応で、災害応急復旧を早期に完了することができたとしている。

堰～河口――の7区間で締結。

業務内容は、公園施設の維持管理や保守点検・修繕のほか、公園内の清掃、園内の定期的巡回および夜間警備といった維持管理業務に加え、見浜園などの運営、施設の利用促進を目的としたホームページやパンフレット


幹線3路線の液状化対策を図

落札者に決めた。猫実地区など埋め立てで市域が拡大する以前から市街地化している元町地域を通る幹線3路線を対象とした液状化対策を検討するもので、年度内をめどに成果をまとめる。業務に当たっては、2017年

る協定」（災害協定）の締結に基づき、応急復旧に当たる建設業者を募集している。2月8日まで受け付け、選定を経て3月13日には結果を通知する予定だ。

堤防の被災時に、早期復旧に取り組む責任を担って